

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500184		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	グループホームなごみ苑		
所在地	三重県津市高野尾町3006-65		
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果市町提出日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2490500184-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 1 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体は合資会社三重福祉会として他地区での事業も展開している傘下の1つで、大型団地の中心部に位置する恵まれた環境にあって地域近郊にスーパーもあるので日用品等の購入に散歩を兼ねて出向いたり日々の散歩で近所の方達と挨拶を交わしている。秋には苑庭で収穫したさつま芋のおすそ分けをしたり自治会主催の盆踊り、防災訓練にも参加、そして近効の保育園児との交流も定期的に行っている。職員も年代的に幅広く、それぞれの考えを尊重しあいチームワークがとれアットホームなグループホームである。又、重度な利用者(要介護5)に対して立位歩行不安定であるが車椅子など使用せず介助にて歩行支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市郊外、亀山市、鈴鹿市に隣接する約6数千人が居住する大きな団地内の一角に所在する住宅改修型のグループホームである。平成14年に開設されたホームで3年前に経営者が替わったが、利用者・職員はそのまま引き継がれている。9人定員で現在の利用者が7人と少人数で家庭的な暖かさが伝わってくるホームである。管理者の指導の下、朝・昼・晩と一日3回、塩素系洗剤のモップを使っての掃除は隅々まで行き届いて清潔である。代表はそれに応じて、定期的に清掃業者を入れて、床ワックスを施している。スーパーや金融機関などが近くにあり、生活に大変便利な環境である。また、協力医による往診が月2回あり、医療との協力体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は運営理念の基本を周知朝の申し送りで唱和し実現に向け取り組んでいる。	法人の理念のほか、ホーム独自で理念をつくり、玄関・事務所・調理台・介護日誌に貼っている。また、日々の介護をするなかでの振り返る機会として申し送り時に理念を唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑周辺を毎日散歩する事によって日常の挨拶や声かけは出来ている。又、苑庭で収穫した「さつま芋」を近隣の方々に職員同行でおすそ分けした。	散歩時やホームの外ベンチでの休憩中に、通りがかりの人と挨拶を交わしたり、秋に大きなサツマイモが収穫できたので、近所へすそ分けをしたりしている。また、地域のボランティアの訪問もあり、地区の保育園の運動会に招かれるなど地域との付き合いは大事と考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区近郊にあるスーパーに本人の希望があれば、職員同行で買い物支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の自治会長、民生委員、津市の介護保険担当職員、北地域包括支援センター等の参加で二ヶ月に一回地域との交流や苑での困り事など幅広く意見交換している。	推進会議のメンバーでもある自治会長から自治会主催の防災訓練への参加要請があり、当日悪天であったので職員のみ参加をした。また、12月にはノロウイルスが流行し、包括の保健師からノロウイルスの予防についての指導を受けるなど会議を活かした取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所の代表が日頃から市町村に出向き意見交換や相談の助言などを受け連携をその都度とっている。	行政の窓口は代表が行っている。法人として事業展開しているため、情報の収集や相談など県、市へはいつも出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も夜間のみであるが昼は夏場であると片方の方は開放となっている。、現在身体拘束はゼロで月一回のスタッフ会議で確認している。	身体拘束の弊害はよく理解しており、玄関は施錠していない。車いす使用と思われる介護度の高い利用者には、藤の椅子に何枚か座布団などを重ねるなど、座ることについても体に負担なく生活できるような工夫がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在までに虐待は無し。月一回のスタッフ会議で確認している。利用者一人は在宅中に虐待があり包括などの支援で当苑に入居となっている。虐待していた長男とは次男により一切関わらない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	裁判所に行って資料は整っているが、現在対象者は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解と納得を得た上で契約を結び、又解約要請については快く受理している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口を設け苦情には速やかに対応出来る体制を敷いている。玄関に意見箱を設置しているが意見は現在ゼロである。	介護計画作成時や面会時など、家族とは話をしてコミュニケーションをとっている。また、家族へ「なごみ苑」だよりを定期的に発行して、苑での様子を知らせている。調査当日、家族の来訪があり、管理者が相談対応を行っていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議又は相談ある事にその日の日勤者と管理者とで話し合う機会を設けている。ケア等の改善策は迅速に連絡帳に記入全職員に知らせ実施している。	スタッフ会議や気づいたその都度、随時管理者が聞いている。リビングに3畳ほどの畳コーナーが、利用頻度が極めて低いので取り払ってほしい要望が出て、実現された。また、一日3回の掃除でも行き届かない部分があり、清掃業者を入れてもらう要望を出して実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況などは各部署より勤務報告を受け把握している。また、各個人の意見等を取り入れ現場に活かし各自の向上心につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のスタッフ会議で経験豊富な職員と共に施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当代表者が経営する傘下のグループホームと職員間の交流研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には管理者と計画作成者が共に実調に出向き家族、本人と充分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の時及び入居間近の頃、家族に再度困り事などを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援に必要な事柄を職員間で判断し適切に対応出来る様配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が寄り添いながら一緒に暮らす姿勢で支援しまた、安心して暮らせる場を提供出来る様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	三ヶ月に一回家族に発送している苑便りに本人の生活状況などを書き添え又、日々の生活のひとこまを写真に撮り便りに同封したり面会時に伝える等して苑と家族が協力し支援が出来る様に工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が本人と共に馴染みの場所(墓参り、自宅など)に出かけたり親戚、友達などの来訪も多くある。	友人の面会があったり、また、今年の正月に年賀状をもらったが出していないということで、相手へ電話でのあいさつをするなどの支援をしている。正月、家族と帰宅したものの、ホームでの生活が安定しており、かえって混乱をまねいた利用者もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を考慮したり日々の散歩にも仲の良い方達とゆっくり話し合っ出掛け手。ホールにては色々な活動に参加し手の不自由な方には折り紙などを手伝って頂いている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の状況に応じて本人や家族の希望を考慮し、アフターケアには万全を期している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に担当職員を配置し喜び、困りごと、又生活の楽しみ等を聞き職員間で共有しきめ細かい対応に努めている。	改まって話を聞くのではなく、何かを一緒にしながら思いを聞いている。職員が担当制になっており、それぞれがきめ細かい対応を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表に基づき、本人家族、前任介護者から細部にわたって聴取して把握する事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回の申し送りで、日々のチェック表(水分補給、排泄)を活かして、また介護日誌の記録等で情報を共有、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のスタッフ会議にて利用者の各担当者が記入した一ヶ月間の処遇申し送り事項を職員全員で検討しケアプランに生かしている。	職員の担当制で、それぞれ担当者が書面で「個別処遇」を提出し、スタッフ会議で検討がされる。それをふまえ、介護支援専門員が利用者・家族の意向を聞いて、介護計画書を作成している。また、毎月のカンファレンス、3か月ごとの評価がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子を記録、また毎日話し合われる情報をミーティングノートに記録し介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症や事故、又急病時には職員の中に看護師もいるので看護支援も出来ている。日々一人ひとりの様子を把握し臨機応変に対応している。近くにスーパーがあり欲しい物が有れば職員と共に買い物支援となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域近郊にある保育園児との交流も定期的に行われ又、地区の社協主催での諸行事にも職員同行で参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者が同じクリニックにかかり、月2回の往診がある。又、夜間何かがあれば主治医の指示のもと他医療機関に受診出来る体制がある。	現在の利用者7名のうち、6名が協力医が主治医となり、月に2回往診を受けている。緊急時や他の医療機関にかかる時には、あらかじめ協力医から電話で連絡をしてもらっている。1名の方は家族で通院をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に経験豊富な看護師が日常的に看護職としての他の職員にアドバイスとなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に連絡をとり協力医療機関につながっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当苑で判断した医療、看護、介護等が出来る場合はチーム全体で取り組み引き受ける様になっている。利用者の家族からは終末期の同意書も、一件貰っている。	法人として看取りをする方針で、現在看護師の確保に努めている。このホームでも医師・看護師・介護職の連携のもと、看取りをしていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医に連絡し適切な指示を仰ぎ看護師と共に適切な処置を講ずる事が出来る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報装置やスプリンクラーも取り付け、避難訓練も昼間・夜間・地震とそれぞれを想定し行っている。また、地区の防災訓練にも参加している。	IH対応の台所、スプリンクラーの設置、燃えにくいカーテンなど防災に対する備え、訓練は夜間を含め実施している。また、地域ぐるみの自治会主催による地震を想定した訓練に、昨年9月参加をしている。	居室が2階に7室あり、避難に困難が予想される。外階段を使うことや1階への階段の下り方など、普段から意識を持ち、訓練されるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し個人情報の保護や秘密保持には充分配慮している。また、プライバシー保護マニュアルを作成し職員間で共有している。	いつも上から目線で接しないことを徹底して介護が実践されている。入浴やトイレなど羞恥心が伴うことについてはその都度気をつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室にて職員が本人の今思っている事(希望。要望など)をたずねる機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールにて諸活動となってる時も断りを言われ居室にてゆっくりされている利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回理容師の訪問でカットや顔剃りが受けられる。時々行事の時など和服を着られる時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から毎日届きその人ひとり一人の好みに応じて盛り付け、献立表(白板)に献立を書き皆さんに今日の献立を言って頂いている。下膳では湯飲み茶碗など軽い物のみ洗い場まで持って来てもらっている。又、テーブル拭きもお願いしている。	食材は法人指定業者が配達をしており、調理は、レシピに基づき職員が作っている。下膳、配膳など利用者の出番もあり、職員が上手く話を引き出し利用者同士、話が弾み、中には利用者の食べるお手伝いをする方もあり、和気あいあいとした食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を確保出来る様心がけ摂取量、水分量はひとり一人記録に残している。糖尿の方は白飯を少し減らしコーヒーなど飲用時は砂糖を入れていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きをする事の一連の動作のできない方が多く職員が側で声掛け支援している。重度の方は職員により毎食後口腔内のケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し(チェック表を作り記入)ている。リハビリパンツ、パットの使用者が増えているが、トイレで排泄が出来る様個々に誘導し自立支援に努めている。ポータブルトイレの使用は無い。	リハビリパンツやパットを利用して、排泄チェック表や表情、時間などみながらトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとり一人の排便状態を把握し運動量の増加、飲料水の促し等日常生活から見直し自然な排便を促進し、常習便秘については主治医が適切な下剤量を決め、処方し毎日排便出来る様に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応毎日入浴出来る様になっているがご利用者様からのご希望がないので週2~3回となっている。温度の設定(追い炊き)や湯量も個々により変えている。	希望があれば毎日入浴可能であるが、現在、週3回の入浴になっている。入浴をしない時は、浴室で足湯をしている。また、湯たんぼやあんかなどを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「家庭的」を優先とし一階フロアや居室でゆったりと安心して快適に休息出来る様支援している。眠剤の服用は現在ゼロである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や看護師から指示を受け服薬の容量、投与時間、症状の変化なども一緒に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて趣味や特技を楽しむ生活になる様な支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に本部の車で全員で出掛けたり、近郊のスーパーに散歩を兼ねて日用品等の購入に向いている。	寒くても暑くても、自然の空気に触れることが体にいいとの思いで、散歩に出るのは日常茶飯事である。また、季節ごとに花見や紅葉狩りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って近郊のスーパーへ同行品定めから金銭レジ支払い(見守り介助)など支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるのは当苑では支援しているが、電話での会話が難しく本人がメモ書きした物を職員が代行で本人の要望などを伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中での共用空間はワンフロアで、広いスペースを提供している。また、季節感が出来る様、各テーブルに花を生けてもらったり、壁面などにぬり絵、貼り絵など製作物を飾り自分達で完成させた喜びを分かち合っている。	1階に2部屋、2階に7部屋の居室があり、階段が狭く不便さを感じるが、清掃が行き届いており、壁に利用者が作ったお正月らしい作品が飾られていたり、テーブルに季節の花が活けられている。また、空調は過剰にならぬよう配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際には長椅子が用意され日光浴となっている。各テーブルの椅子にてテレビを観られたり、ひとり一人が思い思いに過ごせる様に工夫されている。居室にて仲の良い方を呼びベットに座り仲良く話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の家族の協力を得て使い慣れたタンスや鏡台、仏具を持ち込んで、お一人おひとりが個性を持って生活出来る様工夫している。	自宅で使っていた鏡台や家族の位牌をもってこられている方など、それぞれ自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が判らない方もおられる為扉にはネームプレートが貼ってある。又、洗面所やトイレにも貼紙で分かりやすい様にしている。		